

オキュラスシーディーディー

Oculus®-CDD

AMLリスク格付けソリューション

「マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン」 で求められる顧客管理措置をサポート

金融庁から発表されている「マネー・ローンダリング及びテロ資金供与対策に関するガイドライン」において、「顧客管理」（カスタマー・デュー・ディリジェンス：CDD）について、リスク低減措置の中核的な項目として位置付けられています。

1. 顧客単位のリスク格付けが可能

2. 定期的およびイベントドリブンでの格付けの見直しが可能

3. 本人確認書類/在留カードの期限管理・通知が可能

4. フィルタリング・モニタリングシステムとの連携が可能

Oculus-CDDは顧客リスク格付けを軸にした顧客管理のPDCAサイクルを回すことを目的としたスコアリングシステムになります。（P: 顧客リスク格付け、D: リスクに応じたモニタリング、C: トランザクションモニタリング結果を踏まえたリスク格付けの見直し、A: リスクに応じた顧客管理）

高リスクと判断された顧客に対しては、より厳格な顧客管理（エンハンスト・デュー・ディリジェンス：EDD）を実施する必要がありますため、顧客追加情報の入力機能や、上級管理職の承認を得るためのワークフロー機能を備えています。

また、リスク格付けに応じた再レビュー期日の管理機能の他、在留カードの有効期限切れ事前確認の機能も備えています。

Oculus-CDD

顧客属性以外にも商品・サービス、取引形態、国・地域等の複数の情報も加味した顧客単位のリスク格付けが可能です。

■ リスク格付けと格付け毎の管理措置の例



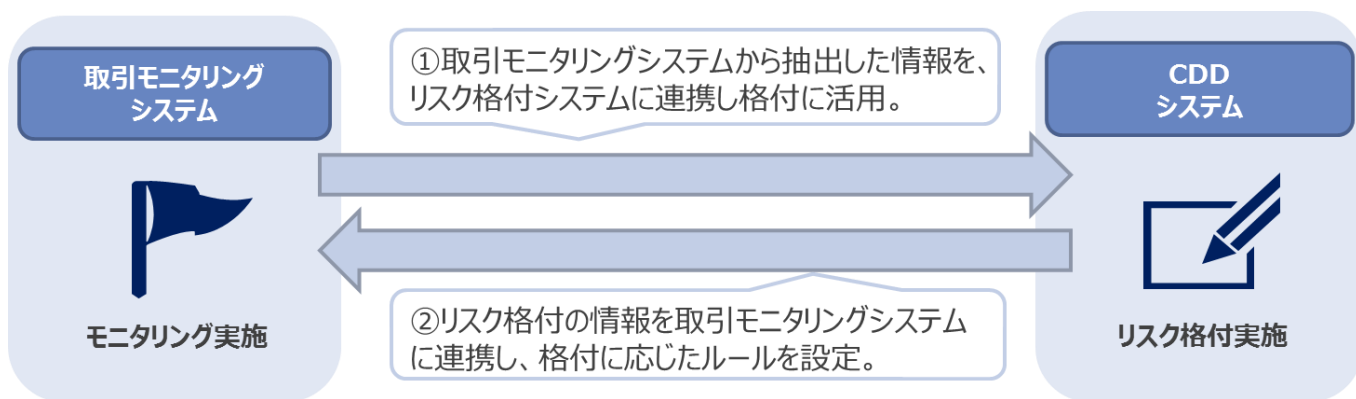
※例ではリスク格付けは「高・中・低」の3段階ですが、最大10段階まで設定可能です。

Oculus®-CDD(リスク格付けシステム)の主な特長

機能	概要
バッチスコアリング機能	リスク格付けのための基準を設定する機能 顧客情報を基にリスク格付けを算定する機能
判定/ワークフロー機能	顧客のリスク格付け結果を表示し、下記内容を申請、回付、承認する機能 ・ 格付けの妥当性の判断結果 ・ 取引継続または謝絶の判断結果 ・ 上級管理職による承認
期日管理機能	リスク格付け毎に定期レビュー期間を設定し自動でスコアリングを行う機能 本人確認書類（在留カード等）の有効期限切れ事前チェックを行う機能
シミュレーション機能	リスク格付け基準の変更時の影響をシミュレーションする機能
分析機能	現行のリスク評価結果と実態（疑わしい取引の届出・取引謝絶）を比較し、分析をするための機能 ※全社リスク評価や、顧客リスク格付けの基準の見直しに使用

FATF第四次対日相互審査結果報告書および最新のAMLガイドラインの中で、『対応が求められる事項』として、「CDDデータと取引モニタリングを統合した、適切かつ包括的な情報システムを導入することを確実に履行すべき。」と指摘されています。

Oculusでは、monitor・CDD間でのデータ連携機能が実装されており、多数の提供実績がございます。



オプション

■ システム共同センター対応

サーバー 1 台を、複数の企業で利用することが可能です。各社には単独利用した場合と同等の機能が提供されます。既に多くの共同利用の実績がございます。

NTTデータ ルウィーブ株式会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル2階
金融ソリューション事業本部 AML担当
Tel : 03-3510-1091 E-mail : amldasd@hml.nttdata-luweave.com

